

大阪歯科大学歯学部学業成績評価に関する規程

(趣旨)

第1条 この規程は、大阪歯科大学学則（以下「学則」という。）第35条に基づき必要な事項を定める。

(カリキュラム)

第2条 カリキュラムは、科目を主とする以下の11コースを基本構成とする。

- (1) 態度教育
- (2) 教養教育
- (3) 語学・情報科学教育
- (4) 基礎科学教育
- (5) 基礎系歯科医学教育
- (6) 社会系歯科医学教育
- (7) 臨床系歯科医学教育
- (8) 総合医学系教育
- (9) 第1～4学年歯科医学統合教育
- (10) 歯科臨床教育
- (11) 歯科医学統括教育

2 科目の単位については、15時間から30時間の授業時間及び自学自習時間を含む45時間の学修をもって1単位とする。各科目の単位数は【別表1】に示す。

3 各学年で修得しなければならない単位数は次の通り定め、学則第35条により、試験の合格者に次の単位を与える。詳細は【別表1】に示す。

- (1) 第1学年（各科目）の単位数 46単位
- (2) 第2学年（各科目）の単位数 45単位
- (3) 第3学年（各科目）の単位数 44単位
- (4) 第4学年（各科目）の単位数 46単位
- (5) 第5学年（各科目）の単位数 40単位
- (6) 第6学年（各科目）の単位数 25単位

4 第2学年編入学生に係る特例については、次の通り定める。

- (1) 学則第14条の2に該当する科目については単位を認定し、受講を免除する。
- (2) 第1学年科目のうち履修すべき科目については第2学年において履修するものとする。
 - ① 授業は放課後、夏季休暇等、第2学年の授業時間割と重複しないよう実施する。
 - ② 科目の評価は科目試験、小テスト、口頭試問、出席状況、受講態度、レポートなどを参考に総合的に判定する。

(出欠席)

第3条 履修科目のすべての授業に出席しなければならない。

2 交通機関の運休や気象警報の発令、感染症の罹患等により、止むを得ず欠席等する場合

の措置は、「学生の通学が困難となる事由が発生した場合の授業等の取扱い規程」に定める。

3 遅刻、早退は、1回につき、3分の1コマの欠席に換算する。

(受験・評価のための資格)

第4条 受験・評価のための資格については次の通り定める。

(1) 第1学年～第4学年において、各学年のシラバスに記載された各科目の予定開講コマ数の80%以上の出席者に受験・評価のための資格を与える。80%に満たない者は受験失格とする。ただし、科目単位数が1単位及び0.5単位の科目については、各年度で科目ごとに欠席上限コマ数を定める。

(2) 第1～3学年において、当該年度の受験失格科目を保有する者に対して総括試験の受験資格を与えない。

(3) 態度教育については各科目で次の項目に基づいて受験・評価のための資格を与える。

① 全出席を原則とする。

② 科目試験、口頭試問、受講態度、レポートなどを参考に評価する。

(4) 第1・2学年において、すべての科目試験の得点率がそれぞれ65%以上の者及び65%以上で指定された補講（土曜日補講含む）を受講した者に総括試験の受験資格を与える。得点の評価は第6条第1項第1号に規定する。なお、科目試験について2科目以内の不合格者も総括試験を受けることができるものとする。その対応は第6条第1項第2号の規定のとおりとする。

土曜日補講の受講対象者が遅刻、早退、欠席した場合は、再補講を実施する。なお、再補講未履修者には総括試験の本再試験の受験資格は与えない。

(5) 第3学年について、すべての科目試験の得点率がそれぞれ65%以上、かつ朝テスト（4月～7月、13回）を80%以上の回数の受験を要し、朝テスト及び実力試験（7月と9月の2回実施）の総合得点率がそれぞれ65%以上の者並びに朝テスト、科目試験及び実力試験の再試験の全ての合格者に総括試験の受験資格を与える。なお、科目試験について2科目以内の不合格者も総括試験を受けることができるものとする。その対応は第6条第1項第2号の規定のとおりとする。土曜日補講の受講対象者が遅刻、早退、欠席した場合は、再補講を実施する。なお、再補講未履修者には総括試験の本再試験の受験資格は与えない。2年次の科目試験の平均点が85点以上で、かつ総括試験の得点率が85%以上の者は朝テスト（13回）の受験は自由とし、合格とする。

(6) 第4学年について、次の要件を全て満たす者に診療参加型臨床実習前の共用試験歯学系CBT (Computer Based Testing、コンピュータを用いた客観的試験) およびOSCE (Objective Structured Clinical Examination、客観的臨床能力試験) の受験・評価のための資格を与える。

①すべての科目試験の得点率がそれぞれ65%以上であること。なお、得点の評価は第6条第1項第1号の規定による。

②朝テスト（4月～7月に14回；9月～11月に7回、計21回）は80%以上の回数の受験を要し、総合得点率が65%以上で、かつ総括試験（4回）の総合得点率と実力試験（6回）の総合得点率がそれぞれ65%以上であること。なお、総括試験の総合得点率は第1回、第2回、第3回、第4回の各総括試験の得点率にそれぞれ0.1、0.1、0.2、0.6を乗じ合計した値とし、実力試験（6回）の総合得点率は第1回、第2回、第3回、第4回、

第5回、第6回の各実力試験の得点率にそれぞれ0.1、0.1、0.1、0.1、0.2、0.4を乗じ合計した値とする。また、朝テスト、科目試験、実力試験及び総括試験の再試験の全ての合格者も含む。3年次の科目試験の平均点が85点以上で、かつ総括試験の得点率が85%以上の者は朝テスト（21回）及び実力試験（6回）の受験は自由とし、合格とする。ただし、4年次において前期の科目試験の平均点が85点未満になれば、それ以降の朝テスト及び実力試験を受験するものとする。その際の朝テスト及び実力試験の得点率の算定は受験回数分の平均とし、係数は乗じない。

- ③コアカリに沿った講義Ⅰ～Ⅲ・実習の予定開講コマ数のそれぞれ80%以上出席し、スリップ帳等の要件を満たす者
- (7) 第4学年のOSCE不合格者のうち、次の①又は②のいずれかの条件を充たす者にOSCEの再受験・評価のための資格を与える。
- ①CBT 本試験の得点率が75%以上であること。
 - ②コアカリに沿った講義Ⅰ～Ⅲ・実習の予定開講コマ数のそれぞれ90%以上出席し、かつ本学指定の特別試験をすべて受験し、指定された合宿に参加及び補講（土曜日補講含む）を受講すること。
- (8) 第5学年の歯科臨床教育については、臨床講義及び総合講義は予定開講コマ数のそれぞれ80%以上出席し、臨床実習は、臨床実習必携に示す当該診療科の評価基準及びスリップ帳等の要件を充たした者に診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（Post-CC PX：Post-Clinical Clerkship Performance Examination）として実施する臨床実地試験（CPX：Clinical Practical Examination）と一斉技能試験（CSX：Clinical Skill Examination）、臨床知識試験及び臨床知識試験の再試験（本試験合格者も模擬試験として再試験を受験することを進級の要件とする。ただし、コロンビア大学研修者については、別途実施する。）の受験・評価のための資格を与える。
- (9) 第6学年の歯科医学統括教育は総括講義からなる。
- ①歯科医学統括教育の予定開講コマ数の80%以上出席の者に学士試験2の受験・評価のための資格を与える。80%に充たない者は受験失格とする。
 - ②朝小テストが80%以上出席の者に学士試験2の受験・評価のための資格を与える。80%に充たない者は受験失格とする。なお、朝小テストは毎週、月曜日と木曜日に実施し、木曜日はS、Aクラス共必須受験とし、月曜日はAクラスのみ必須（Sクラスは任意出席）とする。S、Aクラス分けについては別に定める。
 - ③前年度の原級止め学生は、前年度中に開講する「留年者基礎特別講義」の予定開講コマ数の80%以上出席の者に学士試験1－①の受験・評価のための資格を与える。80%に充たない者は受験失格とする。

（試験）

第5条 試験については次の通り定める。

- (1) 第1～第4学年履修科目の試験は、中間試験（0.5単位の科目については任意とする）及び科目試験で構成される。
- (2) 試験は所定の試験期及び各講座で適宜、行う。
- (3) 試験開始5分前までに着席し、試験開始時刻まで待機すること。なお、試験開始時刻後の入場及び試験開始後15分以内の退場は許可しない。

- (4) 科目試験は多肢選択問題、記述式問題及び論述式問題で構成する。
- (5) 科目試験（本試験）の不合格者は、科目を担当する講座のオフィスアワーにおいて指導を受ける。
- (6) 第1～第3学年においては、科目試験の実施後に総括試験を実施する。総括試験は多肢選択問題とし、出題問題の2分の1は歯科医師国家試験の必修及びそれに相当する一般問題とし、問題は毎年変えるものとする。なお、物理学・化学・生物学についてはこれを適用しない。科目試験及び総括試験の再試験の回数は1回とする。
- (7) 第4学年においては科目試験の他に朝テスト、実力試験、総括試験及び共用試験歯学系 CBT、OSCE を実施する。
- (8) 科目試験、科目再試験、総括試験、総括再試験の欠席者の評価は0点とする。なお、疾病その他やむを得ない事情により試験を欠席し、公欠の承認を受けた者に対して追試験を1回実施する。公欠については別に示す。
- (9) 第5学年で診療参加型臨床実習後客観的臨床能力試験（臨床実地試験・一斉技能試験）を行う。
- (10) 第5学年では、臨床知識試験本試験を年6回行う。
 - ①本試験の各回及び再試験のそれぞれの前日までに、臨床講義及び総合講義の予定開講コマ数のそれぞれ80%以上の出席者に受験資格を与える。ただし、本試験2回目終了時、第1回と第2回の臨床知識試験の平均得点率が65%未満の者は、第3回以降の受験資格要件の出席率を90%以上とする。
 - ②再試験の回数は1回とする。追試験は1回とする。なお追試験は再試験と同日に行う。
- (11) 第6学年に学士試験1（学士試験1-①、学士試験1-②、学士試験1-③）、学士試験1再試験並びに学士試験2及び学士試験2再試験を実施する。
 - ①学士試験1の再試験は1回とする。追試験は1回とする。なお追試験は再試験と同日に行う。
 - ②学士試験2の再試験は1回とする。追試験は1回とする。なお追試験は再試験と同日に行う。

（評価）

第6条 評価については次の通り定める。

- (1) 科目の評価は、科目試験、中間試験（評価については任意とする）、小テスト、口頭試問、出席状況、受講態度、レポートなどを参考に総合的に判定し、100点満点で65点以上の者を合格とする。なお、90点～100点を「秀」、80点～89点を「優」、70～79点を「良」、65～69点を「可」、及び65点未満を「不可」とする。
- (2) 第1～3学年の総括試験及び総括再試験については、得点率が65%以上の者を合格とし、各科目の単位を認定する。第4条第1項第4・5号の規定を充たした者で総括試験の得点率が67%以上の場合は教務部委員会預かりとする。なお、詳細については別に定める。
- (3) 本学が教育上有益と認めるときは、学生が本学に入学する前に大学又は短期大学（外国の大学又は短期大学を含む。）において履修した授業科目について修得した単位を、本学に入学した後の本学における授業科目の履修により修得したものとみなすことができる。ただし、他大学又は他短期大学発行の既修得単位の証明書を提出するものとする。
- (4) 前号の規定により修得したものとみなすことのできる単位数は、本学において修得した

単位以外のものについては、60 単位を超えないものとする。

- (5) 第 4 学年においては共用試験歯学系 (CBT、OSCE) に合格 (合格基準は、100 点満点換算で CBT 73 点以上かつ OSCE 73 点以上とする) と認定された者に第 4 学年の各科目の単位を与える。ただし、CBT の合格判定においては、得点が 73 点以上の者の最低 IRT 標準スコアを別途合格基準と定め、IRT 標準スコアがこの基準以上である者は得点が 73 点未満であっても合格とする。なお、CBT 再試験の合格基準は 75 点以上、若しくは IRT 標準スコアについては本試験の 75 点以上の中で最低スコアとする。OSCE の再試験については 75 点以上とする。
- (6) 第 5 学年においては臨床実習を完了して Post-CC PX (CPX・CSX) に合格し、臨床知識試験本試験 (6 回) の総合得点率が 67%以上の者に歯科臨床教育の単位を与える。ただし、総合得点率は第 1 回、第 2 回、第 3 回、第 4 回、第 5 回、第 6 回の各臨床知識試験の得点率にそれぞれ 0.05、0.1、0.1、0.1、0.15、0.5 を乗じ、合計した値とする。なお、第 4 回臨床知識試験は第 6 学年の学士試験 2 を適用して実施する。実施日は第 6 学年の学士試験 2 と同日とする。
- (7) 第 6 学年においては、学士試験 1 に合格した者に学士試験 2 の受験資格を与える。学士試験 1 の不合格者で復活制度を希望する学生は、学士試験 2 本試験を「復活試験」として受験資格を与える。ただし、復活試験迄の講義出席率が 90%を超えている者にのみ、復活試験の受験資格を与えることとする。
- (8) 第 6 学年においては、学士試験 1 本試験は 3 回行い、その平均得点率が必修問題で 80%以上かつ必修以外の問題で 67%以上を合格とする。学士試験 1 再試験は必修問題で 80%以上かつ必修以外の問題で 70%以上の得点率で合格とする。
- 学士試験 2 本試験は、必修問題の正解率が 80%以上かつ一般問題及び臨床実地問題のそれぞれの得点率が 73%以上、または必修問題の得点率が 80%以上かつ領域別評価 (総論・各論) においてそれぞれの偏差値が基準値以上を合格とする。ただし、総合得点 50 位以内の学生が必修問題の合格基準を満たしていない場合、正答数のみに 1 問加算した得点率で合否判定する。学士試験 2 本試験を「復活試験」として受験した者については、必修問題の正解率が 80%以上かつ一般問題及び臨床実地問題のそれぞれの得点率が 73%以上で復活試験を合格 (合否基準は絶対評価のみとする) とし、復活試験を合格した者は、学士試験 2 本試験不合格者と同様の扱いにて学士試験 2 再試験を受験することができる。学士試験 2 再試験は、必修問題の正解率が 80%以上かつ領域別評価 (総論・各論) においてそれぞれの偏差値が基準値以上を合格とする。なお偏差値は当該年度の本学指定の特別試験の成績により調整の上、定める。学士試験 2 はすべての試験科目 (指定する模擬試験及び学士 1 の再試験) を受験することで評価を与える。
- (9) 第 6 学年においては学士試験 2 に合格した者に歯科医学統括教育の単位を与える。ただし、学士試験 2 本試験を「復活試験」として受験した者については、学士試験 2 再試験に合格した場合に限って歯科医学統括教育の単位を与える。
- (10) 第 1 ~ 第 4 学年の科目の再試験合格者の評価は 65 点とする。なお、それらの追試験合格者の満点は 80 点とする。
- (11) 第 5 学年の臨床知識試験再試験については得点率が 67%以上の者を合格とする。また、臨床知識試験本試験に合格している者も、臨床知識試験再試験を模擬試験として受験しなければならない。

(12) 追再試験欠席者の評価は0点とする。

(13) 臨床実習は、各科の評価項目に沿って評価し、本規程第9条第2項に示す基準を満たした者を合格とし、単位を認定する。

(進級基準)

第7条 進級基準は、次の通り定める。

(1) 第2、第3、第4学年にそれぞれ進級できる者は科目試験すべてに合格し、当該学年の総括試験に合格した者とする。

(2) 前号に加えて第4学年に進級できる者は、朝テストと実力試験に合格した者とする。

(3) 第5学年に進級できる者は第4学年の朝テスト、すべての科目試験、実力試験、総括試験、及び共用試験歯学系 CBT、OSCE に合格した者とする。

(4) 第6学年に進級できる者は歯科臨床教育の単位を修得した者とする。

(登院資格)

第8条 共用試験歯学系 (CBT、OSCE) に合格し、スチューデント・デンティスト認定運営協議会が定める認定基準を充たす者にスチューデント・デンティストの称号を付与し登院資格を与える。

(歯科臨床教育)

第9条 歯科臨床教育における自験必須項目は、次の通り定める。

- ・ 医療面接
- ・ 診療録の作成
- ・ バイタルサイン
- ・ 頭頸部の診察
- ・ 口内法エックス線撮影
- ・ 口腔内検査
- ・ コンポジットレジン修復
- ・ ラバーダム防湿
- ・ 感染根管治療
- ・ プラークコントロール指導
- ・ スケーリング・ルートプレーニング
- ・ クラウンブリッジ
- ・ 部分床義歯・全部床義歯
- ・ 単純抜歯 (永久歯)
- ・ 予防・指導
- ・ チーム医療・地域医療

2 前項の自験必須項目及び各科で設定の項目について、次の通り評価する。

評価をA (完全にできる)

B (できる)

C (できない) とする。

評価A、Bが合格、Cは不合格とする。また Post-CC PX (CPX・CSX) の合格基準は次の

内容とする。

CPX：基本6項目すべてにおいて「適切」であること。

CSX：全評価項目数及び重要評価項目数におけるレベル0の数が本学で定める数以内であること。

3 CSXの不合格者に対しては再試験を行う。

(成績不振者の・留年者の取り扱い)

第10条 留年者の取り扱いについては、次の通り定める。

- (1) 各学年において、1科目以上の受験・評価失格者、総括試験または第4学年における共用試験歯学系の不合格者は、原級に留め、すべての科目を再履修する。
- (2) 委員会預かりで教育・評価の結果が不合格の者は原級に留め、すべての科目を再履修する。
- (3) 第1学年の留年者で、新入生研修、早期臨床体験学習、基礎学力充実科目、情報科学の各科目試験に合格している場合は、これらの科目の再履修は免除する。
- (4) 第1～4学年の成績不振者及び留年者は夏休み中に補講を受けなければならない。

(卒業の認定・学位の授与)

第11条 次の要件を充たす者には卒業資格及び学位授与資格を与え、卒業証書・学位記を授与する。

- (1) 総括講義の出席条件を充たす者（受講しなければならない講義数の80%以上出席を要件）
- (2) 第6学年において本学が指定する3回の特別試験すべての受験者
- (3) 学士試験2の合格者（学士試験2本試験を「復活試験」として受験した場合は、学士試験2再試験の合格者）
- (4) 本学に6年以上（編入生は5年以上）在学して246単位を修得、学士試験に合格し、2月に開催する報告会に出席して歯科医師国家試験の自己解答を提出した者。

附 則

- 1 この規程は、平成27年3月26日より施行する。
- 2 この規程は、平成28年3月24日より改正した。
- 3 この規程は、平成29年3月28日より改正した。
- 4 この規程は、平成29年4月1日より改正した。
- 5 この規程は、2018年2月22日より改正した。
- 6 この規程は、2019年3月15日より改正した。
- 7 この規程は、2019年4月1日より改正した。
- 8 この規程は、2020年4月1日より改正した。
- 9 この規程は、2020年11月26日より改正した。
- 10 この規程は、2022年4月1日に改正した。
- 11 改正後の第2条第3項及び第11条第4号の規定にかかわらず、2021年度以前入学者（2021年度1年次における留年者、復学者、再入学者、又は2020年度以前から1年次に留まる者を除く。）については、従前の例による。

学年	コース	科目	単位数
1年			46
	態度教育	コミュニケーション I 人権論 歯学概論 I 歯学概論 II 現代教養 新入生研修 早期臨床体験学習	1 1 1 1 2 1 1 8
	教養教育	倫理学 法学 社会学 心理学	1 1 1 1 4
	語学・情報科学教育	英語 I 英語 II ドイツ語 情報科学	2 2 1 2 7
	基礎科学教育	物理学 化学 生物学 数学 基礎学力充実科目	4 4 4 2 1 15
	基礎系歯科医学教育	解剖学 I 組織学 口腔解剖学	3 2 4 9
	歯科医学統合教育	英語 I、英語 II、物理学、化学、生物学、 解剖学 I、歯学概論 I、組織学、口腔解剖学	3

学年	コース	科目	単位数
2年			45
	態度教育	コミュニケーションⅡ 問題解決基盤	11 2
	基礎系歯科医学教育	歯学英语Ⅰ 解剖学Ⅱ 口腔組織学 生理学 口腔生理学 生化学 口腔生化学 病理学 口腔病理学 微生物学Ⅰ 微生物学Ⅱ 歯科薬理学 歯科理工学	2 4 3 3 2 3 2 3 4 3 2 4 4
	社会系歯科医学教育	医療統計学	39 1
	歯科医学統合教育	歯学英语Ⅰ、解剖学Ⅱ、口腔組織学、生理学、口腔生理学、生化学、口腔生化学、病理学、口腔病理学、微生物学Ⅰ、微生物学Ⅱ、歯科薬理学、歯科理工学	3

学年	コース	科目	単位数
3年			44
	態度教育	コミュニケーションⅢ ゼミナール／研究チャレンジ	1 1 2
	語学・情報科学教育	臨床歯科医学情報科学	1 1
	基礎系歯科医学教育	歯学英语Ⅱ	1 1
	社会系歯科医学教育	法医学・法歯学 衛生学・公衆衛生学 医療倫理学 社会歯科学・口腔衛生学 歯科医療安全管理学	1 1 1 3 1 7
	臨床系歯科医学教育	保存修復学 歯内治療学 歯周病学 クラウンブリッジ補綴学 総義歯補綴学 口腔外科学Ⅰ 歯科放射線学 歯科健康管理学	4 3 3 6523 1 27
	総合医学系教育	内科学 一般医学Ⅰ	2 1 3
	歯科医学統合教育	臨床歯科医学情報科学、衛生学・公衆衛生学、医療倫理学、社会歯科学・口腔衛生学、歯科医療安全管理学、保存修復学、歯内治療学、歯周病学、クラウンブリッジ補綴学、総義歯補綴学、口腔外科学Ⅰ、歯科放射線学、内科学、歯科健康管理学、	3

学年	コース	科目	単位数
4年			46
	態度教育	コミュニケーションⅣ	1
	臨床系歯科医学教育	歯科矯正学 4 小児歯科学 4 障害者歯科学 1 高齢者歯科学・口腔リ 3 ハビリテーション学 5 局部床義歯補綴学 2 口腔インプラント学 2 口腔外科学 2 歯科麻酔学 3	24
	総合医学系教育	一般医学Ⅱ	1
	歯科医学統合教育	コアカリに沿った講義Ⅰ～Ⅲ・実習	20

学年	コース	科目	単位数
5年			40
	歯科臨床教育	臨床実習、臨床講義、総合講義	40

学年	コース	科目	単位数
6年			25
	歯科医学統括教育	歯科医学統括教育	25